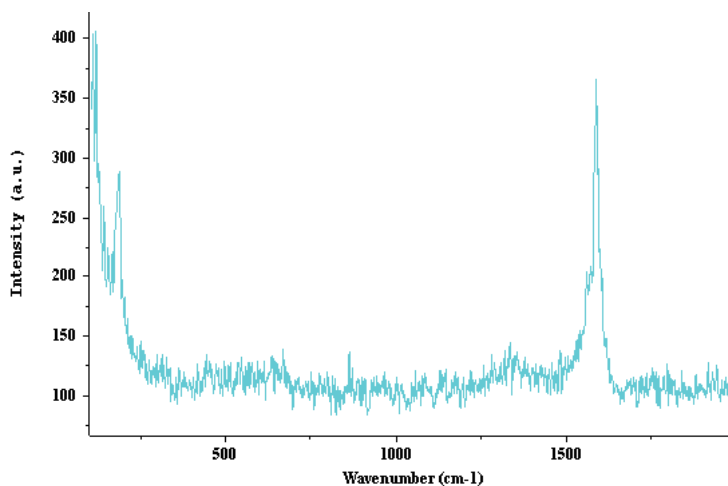


電子材料、無機材料などの構造物性の評価には光と分子との散乱現象を分析するレーザーラマン分光装置 (RAMAN) が用いられています。特に分子の結合状態や配向状態、および応力評価などに利用されています。

ここではカーボンナノチューブを RAMAN (ジョバイボン: Ramanor U-1000) によって分析した例を紹介いたします。多層チューブと単層チューブの違いによって低波数領域にラマンスペクトルの違いが生じています。通常低波数領域のピークは **Radial Breathing Mode** と呼ばれています。

単層カーボンナノチューブ



多層カーボンナノチューブ

